

## 1 受賞団体・個人の名称

じえいえいとよはしなすぶかい

JA豊橋茄子部会（愛知県豊橋市）

（問い合わせ先）0532-25-3814

（経歴）平成11年に設立し、ハウス促成ナスの生産出荷を行う。県内でいち早く訪花昆虫を導入し、平成14年には部会員全員がエコファーマー認定を受け、環境に配慮した栽培に取り組む。

（受賞時の経営内容）施設ナス 18ha、部会員 62名



## 2 生産面の取組

① 栽培技術として、(1)堆肥や有機物の活用による土づくりの励行、(2)リアルタイム栄養診断や肥効調節型肥料・有機質肥料の利用による化学肥料の節減、(3)太陽熱消毒、防虫ネット、粘着板設置、天敵利用による化学合成農薬を低減に取り組む。



【粘着板の設置風景】

② 肥培管理においては、リアルタイム栄養診断により、ナスの草勢に応じた適期の追肥が可能となり、肥料の削減だけでなく収量も向上。最近では、リン酸とカリを抑えたL型肥料の実証が進み、環境保全とコストダウンの両立を図っている。

③ 病虫害防除においては、天敵の実用性を検証し、太陽熱消毒、防虫ネット、粘着板設置と天敵利用を組み合わせたIPMが確立されつつある。

④ 冬季加温における省エネ対策として、4段サーモ装置による日変温管理、循環扇の導入等を実施することで、暖房コストの削減と温室効果ガスの排出を抑制。

## 3 経営面の取組

① 販売単価の低迷や重油・肥料価格等生産コストの上昇により、所得は減少しているが、コスト削減のできる合理的な環境保全型農業技術を導入し、所得の確保に努めている。

② 市場視察や品目別品質調査会、量販店における試食販売会等を実施し、市場や実需者の求める荷姿、品質等について直接現場の声を聞いている。



【市場調査を行う部会員】

## 4 取組の成果

平成14年の部会員全員でのエコファーマー認定を機に、施肥量や農薬散布回数などについて部会で統一した基準を設けたり、GAPを導入し生産工程管理の確認を行う等により、施肥量で20%、農薬散布回数で10%、重油使用量で30%の低減を実現。

## 5 地域社会への貢献

① 部会員全員のエコファーマー認定（平成14年）は、東三河地域の部会組織として初めての取組であり、JAの他の部会にも波及した。その結果、東三河地域のエコファーマー認定者数が大幅に増加し、県内認定者の約5割を占めるまでとなった。

② 試食販売会等で環境に配慮した栽培等をPRすることで、環境保全型農業に対する消費者への理解と関心を高めている。



【試食販売でエコファーマーをPR】